



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	Taxonomy and Phylogeny of Acanthocephala from Japanese Fishes
Author(s)	北, 悠樹
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(理学)
Dissertation Number	甲第16752号
Issue Date	2026-03-25
DOI	https://doi.org/10.14943/doctoral.k16752
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/99597
Type	doctoral thesis
File Information	Yuki_Kita_review.pdf, 審査の要旨 https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



学 位 論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称 博士（理 学） 氏 名 北 悠樹

審査担当者	主査	教 授 柁 原 宏
	副査	教 授 小 亀 一 弘
	副査	講 師 角 井 敬 知

学 位 論 文 題 名

Taxonomy and Phylogeny of Acanthocephala from Japanese Fishes
(日本産魚類に寄生する鉤頭虫類の系統分類学的研究)

博士学位論文審査等の結果について（報告）

鉤頭虫類（しばしば鉤頭動物門 phylum Acanthocephala とされる）は主に甲殻類を中間宿主、脊椎動物を終宿主として利用する寄生虫の一群である。原鉤頭虫綱 Archiacanthocephala・古鉤頭虫綱 Palaeacanthocephala・始鉤頭虫綱 Eoacanthocephala の3群に大別され、今日まで世界から約 1300 種が知られているが、形態だけでなく塩基配列情報にも基づいた系統分類学的な検証の対象となっている種は極めて限られている。魚類に寄生する種の中には、刺身などの生食によって稀にヒトにも偶発的に感染する例が報告されている他、養殖魚への大量発生によって経済的損失をもたらすものも知られている。申請者は、研究の遅れていた日本の海産および汽水産魚類に寄生する鉤頭虫類を対象とし、形態学・分子系統学・ミトコンドリアゲノム解析を統合した総合的研究を遂行した。本研究は、日本産魚類寄生性鉤頭虫の分類学的基盤を大幅に更新するとともに、古鉤頭虫綱内の高次分類体系に関わる長年の問題に対して重要な知見を提供するものと言える。

学位論文は全4章から構成されている。第1章では鉤頭虫類の体系学・体制・生態・病原性に関する概説、第2章は分類学的記載、第3章は分子系統解析を扱っており、第4章では本論文全体が総括されている。博士課程在学中、申請者は11種の古鉤頭虫類に関する10報の査読付き論文を発表し、そのうち3種を新種として記載している。第2章では、これら11種のうち魚類に寄生する10種と未公表の12種を併せた2綱・3目・11科・15属・22種の形態・分類情報が与えられている。独自の標本採集と精密な形態観察、新規に取得した分子データを組み合わせて実行した本章における分類学的な整理の結果は、日本の鉤頭虫研究における基盤的資料として高く評価できる。また、第3章では8種のミトコンドリアゲノムを新規解読し、複数のデータセットに基づいて科間関係の再構築を行った結果、トランスウェナ科およびイストモサカントゥス科の系統学的位置を初めて明確化し、エキノリンクス目の側系統性を示すなど、古鉤頭虫綱内部の高次分類体系に対する見解を大きく前進させた。これを要するに、著者はこの分類群における系統分類学的新知見を得たものであり、その増進に貢献するところ大なるものがある。

よって著者は、北海道大学博士（理学）の学位を授与される資格あるものと認める。